美の継承——昭憲皇太后大礼服の物語

PASSING ON THE BEAUTIFUL

STORIES OF THE MEIJI EMPRESS'S GOWN

初めて洋装を召された明治の皇后、
どのような未来を想像されていたのでしょう。
この大礼服はその想いを継承しています。
今、伝えたい大礼服の物語があります。
今から百数十年前の物語です。
そして、百年後の人達にも伝えたい絹と糸のお話です。

昭憲皇太后について

昭憲皇太后（1850-1914）。一條忠香の三女として京都で生誕。明治天皇の皇后陛下、美子皇后。追号として昭憲皇太后を贈られました。すべての人から敬慕され、高徳で、聡明、なされることは憲にかなう、ということを表す追号で、御事績を象徴します。宮中改革と養蚕の奨励、女子教育の奨励、福祉や医療の推進など、今につながる多くの御事績を残されました。

昭憲皇太后大礼服 研究修復復元プロジェクト

昭憲皇太后は、近代化が進められる中、洋装の先駆者となるとともに、絹産業を重んじられて、その発展にご尽力されました。この大礼服は、明治時代の近代化、社会変化、殖産興業などを表象する貴重な歴史資料であり、現存する最古の昭憲皇太后御所用の洋装大礼服です。明治時代後半に京都の大聖寺門跡に御下賜され今日まで大事に守られてきました。貴重な歴史資料である大礼服ですが、裂地や絢爛な刺繍など全体に傷みがみられ、早急に適切な修復が必要でした。現代の私たちが未来へ繋ぐためにできる大事な取り組みと考え、後世に伝えるために研究修復を目的としたプロジェクトを平成30年に立ち上げました。

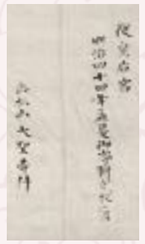
尼門跡寺院とは

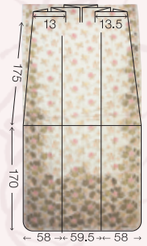
尼門跡寺院とは、皇族・公家などの高貴な出自の女性が代々住持をつとめたお寺で、独自の文化を伝え「比丘尼御所」とも呼ばれていました。御所との繋がりから皇室より下賜された宝物や、寺院ゆかりの宝物が多く残され、無形の伝統や御所ことば、また特別な年中行事も伝えられています。

大聖寺門跡（京都）

大聖寺本堂内　仏前の装飾
打敷、および昭憲皇太后御料よりお仕立直しの戸帳

大聖寺門跡は室町時代より内親王が歴代 御入室になり長くその由緒ある法灯を守ってきた尼門跡寺院です。尼門跡寺院の尼僧たちは、御下賜の染織品や奉納の着物をほどき、仏前を飾る四方形の打敷や戸帳に仕立て直し、仏前を荘厳してきました。打敷などにして祭壇に飾ることは、供養と祈りの意味が込められています。昭憲皇太后大礼服は皇后宮より明治44年大聖寺に下賜された後、トレインを2枚に裁断し、打敷に仕立てられました。「従皇后宮／明治四十四年孟夏御寄附貳枚之内／岳松山大聖寺什」と墨書があります。その後、墨書のある裏地とともに、プリーツを入れ、再び元のトレインに縫い合わされました。





右：縫い直されたトレイン
左：墨書がある打敷の裏

昭憲皇太后大礼服研究修復復元プロジェクト実行委員会

実行委員長 モニカ・ベーテ（中世日本研究所所長）

協力機関 大聖寺門跡、明治神宮国際神道文化研究所、中世日本研究所、
公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団、株式会社染技連 文化財修理所

昭憲皇太后大礼服研究修復復元プロジェクト協賛企業／助成団体

株式会社トプコン、日本通運株式会社、前田建設工業株式会社　他
公益財団法人 東芝国際交流財団、明治神宮

ご支援のお願い

公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団　電話 03-5685-2311　http://www.bunkazai.or.jp/
中世日本研究所　電話 075-212-1206　http://www.chusei-nihon.net/